

白蛇物語

カナリア小鳥

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

なんか皆さんが書いているワンピースを見たら自分も書きたくなってしまって、書いた作品です。

いちようワンピースです。

目次

第1話

—

1

第2話

—

7

第1話

僕は死なない。

大切な人がいるから。

俺は死ねない。

神様になったから。

僕は生きたい。

大切な人を守るために。

俺は死にたい。

大切な人が死んだから。

だから

僕は／俺は

生きたい／死にたい

~~~~~

side主人公

僕がいつの間にかこの無人島に転生してから早5ヶ月が過ぎた。

最初は大変だった、いつもの通りに会社に行きいつも通りに帰宅して寝て起きたら、目の前に海が見えた。

自分でも最初は混乱した。最初に考えたのは誘拐だったがそれは無いだろうと考えた。

何故なら僕がいた横に落ちていた手紙に書いてあったから。

手紙には『拝啓

突然ですが、まず始めにこれ

は誘拐などではありません。私のミスによりあなたを殺してしまったので勝手ながら転生させました。これはフィクションなどではありません。現実です。あなたには大変申し訳ないですが了承してください。それでは特典の話に移りたいと思います。特典は同封した紙に3つだけ書いて下さい。ただし特典の追加や不老不死や生命を創るなど行き過ぎたものは却下します。もし特典が浮かばなかった場合はまた後日枕元に紙を置いておきます。そちらに書いて下さい。それでは新しい世界を楽しんで下さい。

神より』

こんな感じの内容だったが正直前の人生では十分な親孝行をして両親が亡くなったので別に未練などは無かったのだが、いきなり転生とか言われたときはさすがに動揺した。

それから同封してあった特典を書く用の紙は突然特典と言われても今は思い浮かばないので丁寧に仕舞っておいた。

それから自分のいた所を少しずつ探険し食べ物と水の確保を優先した。

そのあとは、海辺つたいに歩き町を探して歩いた。

ちなみになぜか体が5歳児位まで小さくなっていて、顔や髪の毛の色も黄緑色に変わった。

顔は前世よりはイケメンになりたい。

それから海辺を歩いて町を探して5ヶ月が経っていた。

何故日数が分かったかというところ木の板に正の字を書き続けていたからだ。

5ヶ月歩いた成果は町などなくここは大きな島だということ、あと、島の中央には変な実を付けた凄く大きな木があったこと、人などは居なかった位かな。

今はその木の大きなうろで生活中だ。

特典については1つだけ神様に貰った。

貰った物は沢山入る袋だ。

これの使い道はこの島では結構ある。

なぜなら始めてみる食べ物や生き物などが沢山いて、珍しいものは採取してしまったから入れる袋が欲しかったのだ。

変な実についても落ちていたものを全て集めて袋に入れておいた。

この袋は容量の限界が無いのではないと思うように入っていく、なかなか優れた袋なので神様には毎日感謝の祈りを捧げている。

そしてついこの間、神様から手紙が来た。

内容は凄く簡単なものだった。

『ありがとう』



心が温かくなった。

まだ1度も顔を見たことの無い神様だがこの人は良い神様だと感じた。

それからはうろの中で動物を採ろうと頑張つて鍛えた。

お肉が食べたかった。

とりあえず始めた事はからだの基礎を作ろうと軽い筋トレから始めた。

メニューは腕立て伏せ30回、腹筋30回、背筋30回、スクワット30回、近くの滝での瞑想を

毎日頑張つてやり、大丈夫かなと思つたらちよつとずつ増やした。

最近ではどれも150回まで増やしていて、ウサギくらいの小動物は取れるようになった。

肉は旨かった。

最近の1日のサイクルは朝起きて、ご飯を食べて、筋トレして、瞑想して、木の回りを探索して変な実が落ちていたら回収して、そのあと昼飯食べて、筋トレして、夕飯まで走り込みして、夕飯食べて、寝るを繰り返している。

最初はキツかったけど段々なれてきた。

この体は前の体より性能が良かったようだ。

それではごきげんよう!!!  
by カナリア 小鳥

## 第2話

あの筋トレを始めてから6年が過ぎた。

今でもまだ続けており、10000回まで増やすことができた。

この体のスペックの高さがうかがえる。

筋肉もついてきた。

それと筋トレに加えて前世でやった通信空手と憧れていた剣術の練習をしている。

剣術に使う刀は無いので変な実を付ける大樹の枝を鋭くといだ石で削って木刀を作った。

僕の見た目も少し変わって、身長が160まで伸びたし、髪を後ろで結んでいる。

髪は腰の辺りまで伸びてから何故か伸びなくなつたから、病気かと思つて心配だつた。

今はここを出るために大樹の幹や粘土、蔦等を使って船を作っている。

船の作り方は知らなかつたけど神様との手紙交換である程度教えて頂いた。

神様との手紙交換とは、僕が毎日お祈りを忘れずやっていたら神様の格が上がり力が増したため特典を2追加や手紙の交換をしている。

神様は結構気さくな方で凄く良い神様だった。

何故ここを出るかだけど、それは最近食べ物や動物などが数を減らしているからだ。

僕の考えでは大樹が変な実を1つ落とすことに島の自然が枯れているのでは？この

島は大樹の変な実を作るためだけにあつた島なのでは？と考えた。

神様にも相談し、船の作り方を教えて頂き、保存の効く干し肉や果物、真水を準備し

て、神様に貰った袋（今後は魔法の袋と表記する）に入れた。

大樹の変な実も残り数個だ。

この調子だと1週間もかからないと考える。

船を早めに作らなければならない。

あれから4日が経ったが実の数が残り1個だ。

明日には落ちてしまうだろう。

船の準備があと少しだ。

今日の夜には完成するだろう。

しかし予想以上に早く来てしまったな。

腹が減った。腹が減った。腹が減った。

喉が渴いた。喉が渴いた。喉が渴いた。

猛烈な飢餓感を感じる。

昨日は船を作つて寝たはず、なのになぜこんなにも腹が減った!?

ヤバイ。

目を開けてみると大樹や自然が枯れ始めていた。

実一つ落ちただけでこんなにも早く枯れる物なのか!?

とりあえず大樹まで動かなくては。

大樹の近くまで来たが空腹感が限界まで来ている。

あー腹が減った。喉が渴いた。食ベタイ。

何か口に入れたい。腹が減った。

目の前には変な実があつた。

もうこれでいい。

しかし毒が入っているかもしれない。

いやもう何でも良い。

とにかく、

ハラガヘツタ

つてクソ不味いじゃねえか!?

目が覚めると、船の上だった。

いつのまに船にきたのだろうか？

しかし何故か手と足の感覚がない。

船縁まではつて上つて水面を見ると、なんと自分の姿が大きいめの白蛇になっていた。

えっー!?

なんでだー!?

そして僕は気絶した…。

それではごきげんよう!!!

byカナリア小鳥